

北総鉄道の運賃問題に関する副市長等会議の概要

1 日時

平成21年1月22日(木) 10:30～12:00

2 場所

県庁本庁舎

3 出席

県、市川市、船橋市、松戸市、鎌ヶ谷市、印西市、白井市、印旛村、本埜村、都市再生機構、県企業庁

4 会議の概要

(1) 市村の主な意見

- 市民から直接的に値下げの要望がない。
- 千葉ニュータウンでは運賃が高いということが大きな問題である。
- すでにひとつの枠組みの中で北総を支援しているのに、なぜ新たに支援するのか。
- 市内の他の鉄道とのバランスを考えると財政支援は難しい。
- 今までの勉強会の議論の中で線路使用料の話が非常に大きなウエイトを占めている。北総線には多大なイニシャルコストがかかっており、利用者は高運賃という形で負担し続けているにもかかわらず、成田新高速鉄道が運行する場合には負担がないということは到底おかしい話。北総線、成田新高速線には複数の事業者がかかわっており、使用料は同一のルールに基づいたものであるべき。

支援は線路使用料の話の解決が前提だ。支援については、線路使用料の解決を前提に県の方から案を出してほしい。

仮に、線路使用料によって他の鉄道の経営が厳しくなるなら、支援のいろいろな方法があるだろうから提案いただきたい。

- 全体のスキームの提示とそれに対して運賃を下げることについて、利用者だけではなくて周辺の市町村もしくは市民にとってどのようなメリットがあるのかを説明できる材料を用意し、最終的にはどのような案があるかというところまで提示してもらった上で、考えていきたい。

(2) 県の主な意見

- 北総線は県民から運賃値下げの強い要望がある。
- 成田新高速鉄道の開業時期もあり、受益の範囲、市民への説明などを含めて、この副市長等会議で一步なり、半歩なりの前向きの検討ができないかと思う。
- 北総鉄道が将来どうなるかは、将来推計がないと話ができないと思う。
鉄道がなくなっては困る。住民の足をなくしたくはない。そうした中で何ができるのか、どういうメリットが出てくるのか検討したい。
- 数年後に北総がどうなるか、将来推計がわからないと支援の条件も内容も議論できないと思う。
- 開発者の負担も含めていろいろ考えていきたい。
- 県としては、北総鉄道の債務超過の解消時期の前倒しや財務体質の改善に資するような支援は必要なのではないかと考えている。
- 運賃値下げは成田新高速鉄道の開業に合わせてやりたい。
全市村の合意をとった上で支援案作りを進めたい。
市民に説明できないものはできない。県民も同じである。
その中で、線路使用料はもちろん国に言っていく。それが前提条件だというならそれを出してもらおうよう要望する。
案は市村の賛同を得て作って行きたい。ただ時間的な余裕があまりない。
北総の将来推計は北総鉄道(株)に求めて行きたい。